

税務

始めよう!

複式簿記とアパマン経理実務の勉強 最終回

よくある会計ミスの事例

今回は最終回ということ

漏れ、反対仕訳等です。

で今までのような仕訳事例で

はなく一般の方がよく犯す会計ミスについてまとめておきたいと思います。もうすぐ確定申告が始まりますので、特に複式簿記が初めての方は

チエックリストとして活用していただければ幸いです。

事例1
預金通帳の残高と帳簿残高が違っている

経理の実務において最も大切なことは帳簿残高と実物残高が一致しているかどうかを確認することもあって、まず最初にチェックすべき最重要項目の一つ。もし残高が違っている場合には一つ一つの仕訳について合っているか否か丹念に確認していくましょう。なお不一致の原因としてよくあるのが金額の入力ミス、入力

漏れ、反対仕訳等です。

事例2
元金返済額と利息支払額分けないで仕訳している

複式簿記の仕訳で一番多い間違いが元金返済額と利息支払額を分けないで一本で仕訳しているケース。通帳に別々に記載されている場合にはそれほど間違わないのですが、用紙節約のため元利合計だけを記載しているケースが多いのです。

そのまま仕訳してしまうと、面倒ではありますが、元利返済額だけしか記載されてしまう。面倒ではありますが、元利返済額だけしか記載されない場合には銀行から送られて来る返済予定表を見ながら入力する必要があります。なお入力後は当然ながら残高が合っていることを確認することになりますが、複数の借入金がある場合には補助科目を設けた上で入力しないと残高が一致しているかどうかを合計額でしか確認できません。

不一致となる原因

1 前受家賃、未収家賃の計上漏れ、期首振り替え忘れ

んでご注意ください。

事例3
損益計算書の収入金額と不動産所得の収入の内訳

不動産所得の決算で最も手間がかかり厄介なのが家賃等の収入金額の内訳書(正式名は「不動産所得の収入の内訳」という)を作成することです。ほとんどの方は手書きとかエクセルで作成した入金チエック表を基にして、この様式に直接記入しているようですが、こうして作成した内訳書の合計額と損益計算書の収入金額とがなかなか一致しないのです。

致しない最大の理由は作成の基礎データが違っているからです。ご存じのように損益計算書というものは日常の取引仕訳データを集計して作成しますが、一方の内訳書は仕訳データとは無関係に入金管理用として作成しますので、どうしても離隔(そこ)が生じるので不一致となる原因には次のようなものがあります。

事例4
貸借対照表の預り金と不動産所得収入の内訳

基本的にには事例3と同じ原因で預り金勘定の額が一致していないケースがまま見受けられます。預り金というのは入居者にいずれ返還すべきものですから普段からキチンと管理しましょう。

事例5
貸借対照表に土地の取得価額を計上していない

以上はよくある会計ミスの例ですが、これらは非常に基本的なものばかりです。税務調査の対象とならないためにもキツチリと守るようにしてください。

2 新規契約時、更新時、解約時の仕訳間違い・仕訳漏れ

ソフツ(「らくらく社計簿(しやけいほ)」)を独自に作成して内訳書についても仕訳データから直接作成するようにしてあります。

このように作成の基礎データが違うとしても間違が発生しやすいため、私の事務所では家主さん専用の会計ソフト(「らくらく社計簿(しやけいほ)」)を独自に作成して内訳書についても仕訳データから直接作成するようにしてあります。

事例6
現金勘定がマイナスになつている

家事用のお金で事業用の費用を立て替え払いした場合、現金勘定がマイナスになるケースがあります。このような場合は未払金に振り替えておくべきです。



profile

1952年香川県生まれ。慶應大学卒業。(株)鹿谷総合研究所代表取締役。著書に「家主さん、地主さん、もっと勉強して下さい!」「アパマン経営、なぜ失敗するのか?」など。家主さん向けの会計ソフト「らくらく社計簿」を独自に開発、販売している。

鹿谷 哲也 所長